

経木に短歌響き合い

喫茶ママで 小泉とし夫さん、照井顕さん
15日まで



小泉とし夫さんの短歌を経木に書いて展示している照井顕さん

盛岡市開運橋通の小泉とし夫さん(96)の短歌を、近くに住むジャズ喫茶店主の照井顕さん(76)が経木(きようぎ)に書いた展示会が、同市本町通1丁目の喫茶ママで開かれている。15日まで。

「たましいがぬけていきそうすりなく管の音色のきもにしみゆく」。薄い木の板に書かれた短歌は22点。小泉さんの発行した個人誌や歌誌「北宴」に掲載された中から照井さんが選び、絵手紙用の青墨で一気に書き上げた。

書は独学で、利き手ではない左手で書くことで自身の作為によらないように試みたという。

2人の出会いは20年

以上前。小泉さんの自宅と照井さんの店が近く、「形式にこだわらない、独特の語り口」という小泉さんの歌に照井さんがほれ込んだ。同店内で朗読ライブを開くようになり、喫茶ママでの作品展は5回目になる。

「私という風を包んで縞柄のパジャマが縁側の夕焼けを見ている」「たちくらむ足をふみしめてふとんあげ今朝しみじみと白粥を食う」。老いを受け止めながらの日常から生

まれた作品も、どこことなくユーモアを感じさせる。

小泉さんの短歌には独特のリズムがあり、「短詩といえるのかもしれないし、音楽的なものも感じる」と照井さん。「もしかしたら、『これは短歌じゃない』『書じゃない』と言われるかもしれないが、その面白さを味わってもらえれば」と話す。

午前11時から午後9時まで。日曜定休。電話019-622-5576。